

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600776		
法人名	特定非営利活動法人 養老会		
事業所名	グループホーム「養老の泉」		
所在地	豊後大野市大野町大原1186番地1		
自己評価作成日	令和6年2月17日	評価結果市町村受理日	令和6年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4472600776-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構		
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府壱番館 1F		
訪問調査日	令和6年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「利用者本位」という理念の下、利用者様に寄り添いさりげない声掛けで、本音や希望を話してもらい、援助につなげています
 当施設が終の棲家としていただけるよう、「安心」「安全」で、心穏やかに過ごしていただけるよう、職員全員が同じ思いで利用者様に接しています
 新型コロナウイルス以降、ご家族との関りが薄くなっていましたが、五類に移行してからは、対面での面会を解禁し、いつでもご家族に会えるように支援しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念をもとに、住み慣れた地域で暮らし続けていくことが出来るよう、それぞれの生活リズムを尊重し自由な暮らしを支える支援に努めています。利用者・家族が最期にここで良かったと思ってもらえるよう支援しています。事業所は職員を育てる取り組みを行っており、自己評価スケールにて自分の得意、不得意を発見し業務の中で、どう活かすかを診断し、職員のモチベーションに繋げています。毎月の課題があるオンライン研修の受講や勉強会・資格修得等、向上心を持ち切磋琢磨する職員の姿があります。面会に制限があった期間では毎月の報告(養老会新聞・利用者の日常の写真)が家族の不安軽減に活かされるとともに安心と信頼に繋げています。家族アンケートの中にも感謝の言葉が多くありました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を共有し、理念に沿ったケアを心がけている	ホールに理念・行動目標・職員像を掲示し、理念に沿った行動がとれるよう日頃から理念を意識し共有と実践に努めています。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策の為交流はできていない 回覧板、地区の清掃や行事などには参加している	代表者は、地域との関係は深く交流や馴染みがあります。コロナ禍で例年のような地域行事や事業所行事への招待が難しい状況が続いていますが、地域清掃や水神様の祭り等職員が参加・協力し少しずつ交流を継続しています。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケアの研修等を行っているが、地域の人に向けては活かされていない		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の近況報告やヒヤリハット・事故報告等を行っている 参加されている皆様から、意見やアドバイスをいただいている	今年度より運営推進会議は、参加型にて家族代表・行政代表・ボランティア・かかりつけ医等のメンバーで2ヶ月毎に開催しています。日々の生活は写真を用いて利用者の顔が見える報告を行っています。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当との連携はできている	運営推進会議に行政の方の出席もあり、運営状況について相談し助言を得ています。連絡も密に取り協働関係を築いています。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を定期的に行い、理解を深めている 利用者が自由に暮らせるように支援している	身体拘束廃止及び虐待防止の研修を年4回実施し、その内容と弊害を認識し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。虐待防止においてスピーチロック・フィジカルロックについて話し合っています。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を定期的に行い、理解を深めている 虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修を行い、理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と納得の下、契約を締結している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、積極的に話すよう心掛け、遠慮なく話せるような雰囲気を作るよう努めている	利用者・家族等が意見を言いやすいよう、関係づくりを普段から行っています。電話・面会・メール・手紙等、様々な意見を聞く環境を整えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面接時に意見を出せるようにしている	理事長や管理者と職員の距離感は近く、意見を出しやすい雰囲気を作れています。仕事での悩みや体調面等も管理者に報告して無理をさせないようにバックアップする体制を常に整えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻繁に現場に出向き、日々の状況を知り職員の様子など把握し、向上心を持って働けるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の課題があるオンライン研修の受講に取り組んでいる 外部への研修にも積極的に参加するよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はできていない		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	求めていることや不安を理解しようと努めている 本人の思いに向き合うようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時など、日中の様子を話しながら家族の思いを聞くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困ったことや不安があれば、すぐに実行できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思い、不安、喜びを知ること努め、共有している		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時、気づいたこと、出来事などを伝えられるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係は薄くなっている コロナ以降、馴染みの方との交流が途絶えてしまった	生活してきた懐かしい場所・地元・思いでの場所の外出支援を家族の協力のもと、少しずつではありますが実施しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	得手不得手がある場合は、関係を悪化させないように配慮している 利用者同士の交流が少ないため、職員が積極的に関わるようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなったり転所した場合、それまでの本人の状況は伝えているが、引き続いての関係は築けていない		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向を把握し、できるだけ添えるように努めている	家族からの、情報や利用者とのコミュニケーションで聞き出された情報から個別性の高い支援を心掛けています。職員は利用者の代弁者でなければならないという考えを大切に、会話をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人だけでなくご家族にも話を聞き、馴染みの環境など把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録をこまめにとるようにし、話を聞いたり記録に目を通すことで利用者全員の現状把握を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議で全員の意向のすり合わせを行うが、それ以外にも日々の話し合いで方向性を見定めている	利用者・家族の要望を聞きカンファレンスで話し合いケアプランを作成しています。3ヶ月毎にモニタリングを行い、実行できているかサービス内容とともに達成状況を記録し評価しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録をこまめに行い、ヒヤリハット・事故報告書なども用い、スタッフ会議などで話し合っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに頼ることが多いが、柔軟な意見は積極的に取り入れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源については、うまくいかされていないご家族や職員での支援がほとんどである		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を契約しており、定期的に訪問して見てもらっている 運営推進会議にも参加していただくなど、よい関係性を築いている	利用者・家族の希望するかかりつけ医となっています。他の医療機関を受診の際は、家族対応を基本としていますが、対応が無理な時には施設の方で対応されています。かかりつけ医には日頃より状況報告を行い、信頼関係を築きながら適切な医療がスムーズに受けられるよう支援されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子や急変などを記録しこまめに伝え、適切な受信臨時往診など、受けられる体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医の病院だけでなく、入院の可能性のある病院について、関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医からの働きかけもあり、重度化が見込まれる利用者については医療との連携を強くするようにしている	入所の際、必ず重度化に向けての意向の確認を行っています。利用者の現状に合わせその都度、家族・主治医・訪問看護・職員で密に連携を取りながらチーム一丸となり看取りケアに取り組まれています。看取りに関する研修やその後の振り返り(デスカンファレンス)にも取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修などを通し、学びを会議の中で報告し実践している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災アドバイザーの講演に参加したり、火災だけでなく地震災害も視野に入れた避難訓練を行っている	年2回の避難訓練を行っています。今年は「防災アドバイザー」の講演会に参加し火災だけでなく地震災害や災害後についての学びを深め、「防災訓練計画書」と「シナリオ」の作成に力を入れより一層の災害対策に取り組まれています。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり、きちんと目を見て声掛けしている 話し方はゆっくり優しく、プライドを傷つけないように心がけている	日々のケアの中で、利用者に声を掛ける際は必ず目を見て、その方に合わせた声の大きさ、スピードに注意しながらコミュニケーションを取り、プライドを傷つけない支援への取り組みに努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんがしたいこと、やりたいことを聞き出し、できるだけやれるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	環境にもよるが、できるだけペースに合わせて一日を過ごせるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服や小物など、その人が好きな色なども考えて対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを知り、提供できるようにしている 一緒に準備はできないが、片づけなどは支援しながらしている	朝食は手作りで提供されています。そのほかの食事は外食サービスを利用しています。食事からも季節を感じてもらいたいとの思いで郷土料理を取り入れたおやつ作りに力を入れています。利用者の残された残存機能の活用に取り組まれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分量を確認し、きちんと食べているか確認している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方もできるだけ支援し、介助の必要な方は、しっかりと介助している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄状況を把握し、声掛けをしてトイレでの排泄を促している	排泄表を活用し、排泄パターンを把握しながら声掛けを行っています。排便コントロールが困難な方には、水分補給・体操等行いながら便秘の解消に努めています。トイレ内には立ち上がりやすい様に、跳ね上げ式の手すりや縦の介助式バーを配置し自立支援へ取り組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や体操などの軽い運動を実施し、便秘の解消に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日時は職員の都合で決めている 入浴日には声掛けを行い、同意を得たうえで支援している 入浴前には必ずバイタル計測を行い、血圧などの状況を見て日程を変更している	週に2回の入浴支援に取り組まれています。体調・入浴拒否、その時間の入浴拒否等の利用者は、臨機応変に対応しています。重度化している利用者が多くなりリフト浴で安全安楽に入浴できるよう取り組まれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	現在の時刻を伝え、生活習慣の乱れを軽減したり、体調を見ながら声掛けをして休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	排泄コントロールが必要な方なのか、血圧や血液サラサラの薬を飲んでる方なのかを把握している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみを手伝ってもらったり、コーヒーなどの嗜好がある方に提供したり、ご家族の写真を見て安心してもらったりしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策の為、外出の支援は行っていない 病院受診については、ご家族にお願いする場合もある	何処かに出かける等の外出支援の取り組みはまだ行われていませんが日常的に外気を楽しむ支援に努めています。	外出の支援は積極的にはまだ取り組まれていませんが、病院受診の際に自宅近くを通ったり、戸外への外出支援に今後は取り組んで行きたいとの思いがあります。今後の外出支援に期待が持てます。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際、本人が支払いできるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話ができる方は付き添い、一緒に電話をしている 電話等ができない方は、家族の方に日々の様子等写真を添え、ご家族への手紙として伝えるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけをしたり、利用者の作品を展示したりしている	共用空間では、日常的に利用者が集まり食事をとったり交流や活動が行われています。ソファや椅子でゆっくりテレビを見たり・外を眺めたり、職員の方とお話をしたり落ち着ける雰囲気作りに努めています。花で季節を感じて頂けるよう、季節の花を飾っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室でテレビを見る方がいたり、皆さんと一緒にホールで過ごしたり、体操したりと、環境を工夫して対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使いやすい配置をしたり、自分自身で片づけたりなどして、居心地が良くなるように工夫している また、安全面にも配慮した空間を提供している	各居室にはエアコンと快適に過ごしていただけるよう、温度・湿度計を設置されています。家族から送られてきた写真をアルバムやボードに貼ったり、何時でも手に取ることが出来るよう低い筆箱を用意し居心地よく過ごせるように工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダー等の情報を活用し、自立した生活が送れるようにしている		